

**令和元年度の
事務事業の評価シート
(病院局)**

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	10602010	川崎病院の運営				有							
担当	組織コード	所属名											
	833110	川崎病院事務局庶務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	—	—		施設の管理・運営	—								
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例												
総合計画と連携する計画等	国土強靱化地域計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画、情報化推進プラン、男女平等推進行動計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
	取組2(10)公営企業の経営改善			11 川崎病院におけるスマート化の推進									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	9,870,753	9,473,771	10,530,862	10,098,991	9,849,245	10,655,113	11,165,875		10,850,681		
		国庫支出金	1	-	1	1	-	1	1		1		
		市債	638,000	-	1,238,000	771,000	-	1,286,000	1,940,262		1,481,000		
		その他特財	8,458,377	-	8,554,168	8,588,370	-	8,630,419	8,486,872		8,630,987		
		一般財源	774,375	-	738,693	739,620	-	738,693	738,740		738,693		
	人件費※ B	6,064,520	6,064,520	6,043,205	6,043,205	6,043,205	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	15,935,273	15,538,291	16,574,067	16,142,196	15,892,450	10,655,113	11,165,875	0	10,850,681	0	0	
	人工(単位:人)	716		711.3									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に受けられるようにします。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院として精神科救急患者(二次、三次)の受入を行います。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入、災害拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①医療機能再編整備に向けた基本設計 ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:29,800人以上) ③再編整備と運動したスマート化の推進(防災機能強化・中長期保全・省エネ改修) ④精神科救急医療の安定的な提供(精神保健指定医数:3人以上) ⑤地域医療支援病院の運営と連携の推進(紹介率:50%以上、逆紹介率:70%以上) ⑥がん診療連携指定病院の運営と機能の強化(がん登録数(報告値):1,320件以上) ⑦がん検診の充実 ⑧PET-CTの運用(運用件数1,000件) ⑨がん相談支援センター等のがん診療連携指定病院機能の安定的運営(がん相談件数:300人以上)
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①③医療機能再編整備基本計画に基づき、救命救急センター棟の新築及び既存棟の改修に係る設計に着手するとともに、エネルギー棟・給水ポンプ棟の新築については、エネルギーサービス事業者を選定し設計に着手しました。 ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進については、重症患者の搬送はほぼ断ることなく受入れ、市の基幹病院としての役割を果たしました。(三次救急応需率:97.4%)しかし、救急要請件数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響などにより救急患者受入数の目標値は達成できませんでした。(救急患者受入数:24,527人) ④精神科救急医療の安定的な提供のため、精神保健指定医数3人を維持しました。 ⑤地域医療支援病院の運営と連携の推進については、地域医療連携の会の開催や診療所等への訪問、正面玄関入り口に地域医療機関(連携登録医)が検索できるデジタルサイネージの設置などにより、地域の医療機関との関係強化に取り組みました。また、地域医療支援病院として、紹介・逆紹介による地域医療連携を推進しました。(紹介率:71.3%、逆紹介率:92.5%) ⑥がん診療連携指定病院の運営と機能の強化については、地域連携クリティカルパスの運用を行い、地域のクリニックと連携したがん診療を推進しました。また、各種指定基準について確認し、維持に努めました。(がん登録数(報告値):1,650件) ⑦がん検診については、胃がん内視鏡検診(週52棟)を維持しました。また、広報を強化するとともに市民公開講座を通して啓発を行いました。 ⑧PET-CTの運用については、病院訪問や地域の医療機関への広報強化などによる共同利用の推進に努めました。しかしながら共同利用が想定を下回ったため、利用実績は増加したものの、目標に達しませんでした。予約の取りやすさなど利便性の向上を図るとともに、引き続き近隣の病院への説明を行い、共同利用の促進に努めます。(運用件数:814件) ⑨がん相談については、外来との連携や信頼できる情報提供により、その人らしい治療選択ができるよう支援を行うとともに、毎月がん患者サロンを開催し、語り合いの場を設けることで、悩みや不安の軽減などにつながるよう取り組みました。(がん相談件数:556人)	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）		目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	活動指標	市民公開講座開催数	目標	6	6	6	6	回
		説明	市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座の開催回数	実績	9	7	—	
2	活動指標	災害派遣医療チームの隊員数(市DMAT)	目標	30	30	30	30	人
		説明	災害派遣医療チームの在籍隊員数(研修修了者)	実績	46	46	—	
3	成果指標	入院患者満足度	目標	88	88.5	89.3	89.3	%
		説明	市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	86.6	90.1	—	
4	成果指標	外来患者満足度	目標	78.8	80.2	81.7	81.7	%
		説明	市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	76.2	68	—	
5	成果指標	紹介患者数	目標	12,000	12,100	12,200	12,300	人
		説明	地域の他の医療機関から紹介されて川崎病院を受診した患者数	実績	12,305	11,772	—	
6	成果指標	三次救急応需率	目標	97.9	98.1	98.1	98.1	%
		説明	救急自動車により搬送される3次救急患者の応需率(受入件数/受入要請数)	実績	98.6	97.4	—	
7	成果指標	精神科救急患者受入数(二次・三次救急)	目標	28	28	29	29	人
		説明	精神科救急医療体制により受入れた患者数	実績	25	17	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	R1年度: 駐車場を貸し付け方式により民営化しました。 H29年度: 川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本計画を策定し、拡充する機能、規模、配置など計画をとりまとめました。 H28年度: 川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本構想を策定し、医療機能再編整備の基本的な考え方をとりまとめました。 H27年度: 川崎市立病院中期経営計画2016-2020を策定し、計画期間内(H28-R2)における経営形態の現状維持等を確認するとともに、医療機能再編整備の検討を進めることとしました。 H26年度: 市立川崎病院におけるスマート化の基本方針を策定し、今後の医療需要の増加に対応する医療機能再編整備の検討を進めることとしました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	外来患者満足度は目標を達成できなかったものの、入院患者満足度は昨年度よりも向上し、目標を達成することができました。また、三次救急応需率は97.4%となり、ほぼ断ることなく受け入れており、市の基幹病院としての役割を果たしました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	【民間の活用】令和4年度導入予定のエネルギーサービスにおいて、民間ノウハウを活用したサービスの導入により、設計・施工・管理・光熱水費等のコストの削減が期待できます。 【事業手法等の見直し・質の向上】今年度から、清掃業務仕様を見直しするなど、経費の削減を図りました。引き続き、より一層の効率化・質の向上が図られる可能性はあります。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	一部成果指標が目標値に至らなかったものの、三次救急医療、感染症医療、精神科救急など、公立病院に求められる政策的医療を継続的に実施し、市民に信頼される市立病院の運営を行うとともに、神奈川県難病医療支援病院の指定を受け、地域の難病医療提供体制を推進するなど、施策に対して貢献しました。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要													
事務事業	事務事業コード	事務事業名							政策体系別計画の記載				
	10602020	井田病院の運営							有				
担当	組織コード	所属名											
	835110	井田病院事務局庶務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類		分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)						
	—	—			施設の管理・運営		—						
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例												
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略,かわさき保健医療プラン,市立病院中期経営計画,情報化推進プラン,男女平等推進行動計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度			R1年度			R2年度			R3年度		
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	5,130,056	4,514,508	4,724,959	4,729,336	4,865,035	4,989,114	4,968,798		4,989,113		
		国庫支出金	1	—	1	1	—	1	1		1		
		市債	518,000	—	116,000	356,000	—	341,000	292,038		341,000		
		その他特財	4,128,046	—	4,161,292	3,924,143	—	4,200,447	4,228,792		4,200,446		
		一般財源	484,009	—	447,666	449,192	—	447,666	447,967		447,666		
	人件費* B	3,982,425	3,982,425	4,102,124	4,102,124	4,102,124	0	0	0	0	0		
	総コスト(A+B)	9,112,481	8,496,933	8,827,083	8,831,460	8,967,159	4,989,114	4,968,798	0	4,989,113	0		
	人工(単位:人)	470.18			482.83								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)	
政策体系	政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に受けられるようにします。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行っていきます。また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①救急医療の充実に向けた取組の推進(救急患者受入数:9,100人以上) ②手術支援ロボット、内視鏡下治療、化学療法の実施によるがん診療の推進(がん登録数(報告値):1,262件以上) ③がん検診及び人間ドックの充実 ④緩和ケアの継続的な提供(緩和ケア患者受入数:510人以上) ⑤川崎病院とのがん診療に関わる連携強化 ⑥地域包括ケア病棟の活用と、回復期機能の充実(地域包括ケア病棟稼働率:85%以上) ⑦地域医療機関との連携による機能分化の推進 ⑧在宅復帰・在宅療養支援の充実(訪問診療件数:1,690人以上)
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	⑨斜面防護等工事の完成【変更】

実施結果 (Do)	
上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3 <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	<p>ほぼ目標どおり達成できました。</p> <p>①救急医療の充実に向けた取組については、救急センターの体制を強化するとともに、円滑な救急搬送に向けて消防との情報交換を密に行うなど取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、救急患者受入数は昨年度を下回りました。(救急患者受入数:6,845人)</p> <p>②がん診療については、婦人科での子宮がん等の手術を再開し、充実にも努めました。(がん登録数(報告値):1,343件)</p> <p>③がん検診及び人間ドックの拡充については、市民公開講座(5回)や出前講座(8回)によるがん検診の啓発活動や企業等からの各種健診の受入れ強化に取り組みました。</p> <p>④緩和ケアの継続的な提供については、患者やその家族に対し、外来・入院・在宅と切れ目のない緩和ケアを提供しました。(緩和ケア患者受入数:538人)</p> <p>⑤川崎病院とのがん診療に関わる連携については、川崎病院にあるPET-CTの共同利用など、市立病院間での連携を促進し、充実にも努めました。</p> <p>⑥地域包括ケア病棟の活用では、院内外からの患者受入について、毎週多職種による調整会議を実施しながら病床運用を行いました。また、患者の日常生活のリズムを活性化するとともに、退院に向けた取組として、生活機能の向上などを目的とした院内デイサービスを開始するなど回復期機能の充実を図りました。(地域包括ケア病棟稼働率:82.8%)</p> <p>⑦地域医療機関との連携による機能分化の推進については、地域連携の会の開催やクリニック訪問等により地域の医療機関と顔の見える関係作りを進めたほか、今年度新たに土曜日午前中からかかりつけ医からの電話予約の受付を開始し、更なる地域医療連携の推進に取り組みました。また、9月に厚生労働省から「2025年に向けて役割・機能の再検証を行うことが必要な公立・公的医療機関」として井田病院がリストアップされましたが、再検証の結果、今後も医療需要の増加が見込まれる中、井田病院は地域に根差して必要な医療を提供しており、地域の中核病院として重要な役割を担っていることから、現状の機能を維持することとし、川崎地域地域医療構想調整会議において合意を得ました。</p> <p>⑧在宅復帰・在宅療養支援の充実については、在宅療養後方支援病院の届出を行い、医療依存度の高い患者に対し、在宅診療、訪問看護を行うとともに、近隣医療機関や訪問看護ステーション等との機能別の役割を重視して更なる連携に取り組みました。また、外来・病棟・退院調整看護師等が連携し、退院前後の訪問を効果的に行いながら、円滑な退院調整・退院支援に取り組みました。(訪問診療件数:1,072人)</p> <p>⑨斜面防護等整備工事が完成しました。</p>

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）		目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1	活動指標	市民公開講座等開催数	目標	12	12	12	12	回
		説明	市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座や出前講座の開催回数	実績	13	13	—	
2	活動指標	がんサロン開催数	目標	22	22	22	22	回
		説明	がん患者とその家族が、診察室以外の場所で、日常の悩みの相談など自由に語れる場所であるが、がんサロンの開催数	実績	23	20	—	
3	成果指標	入院患者満足度	目標	90.7	91	91.3	91.3	%
		説明	市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	90.5	93.1	—	
4	成果指標	外来患者満足度	目標	82	82.3	82.6	82.6	%
		説明	市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	82.4	84.4	—	
5	成果指標	紹介患者数	目標	6,230	6,350	6,470	6,590	人
		説明	地域の他の医療機関から紹介されて井田病院を受診した患者数	実績	6,687	6,589	—	
6	成果指標	内視鏡治療件数	目標	703	711	720	720	件
		説明	内視鏡により治療を行った件数	実績	745	758	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 R1年度: 駐車場を貸し付け方式により民営化し、有料化しました。 H29年度: 効率的な診療体制を構築するため、井田病院の脳神経外科及び呼吸器外科の医師を川崎病院に集約しました。井田病院では、川崎病院との業務体制により、外来診療を継続することしました。 H27年度: H28年度からR2年度までを計画期間とする中期経営計画を策定し、計画期間内における経営形態の現状維持等を確認しました。 H26年度: 新棟の全面開院に合わせた強化をしました。(救急センター、内視鏡センター、化学療法センターなど) H24年度: 新棟の一部開院に合わせた医療機能の強化をしました。(病棟機能の全面移転による病床再編、外来スペースの集約) H21年度: 再編整備計画の策定による医療機能の見直しをしました。(工事期間における計画)		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
評価の理由	【市民のニーズ】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】公立病院として、引き続き救急医療、結核医療等の政策的医療、不採算医療を担っていく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	患者満足度については、例年高水準で推移しており、目標値も高く設定している中で、入院患者満足度、外来患者満足度ともに目標達成となりました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	今年度から、窓口会計等医事業務と電話交換業務を統合するなど、経費の削減を図りましたが、さらなる民間活用や事業手法の見直し等により、コストの削減や患者サービスの向上を図ることができる可能性はあります。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標である入院患者満足度、外来患者満足度はともに目標を達成しています。また、救急医療や結核医療、新型コロナウイルス感染症対応など、公立病院として求められる政策的医療を継続的に提供するとともに、緩和ケアをはじめとしたがん診療や地域包括ケア病棟の運営、在宅療養後方支援病院の届出など、地域のニーズを踏まえた医療を提供しました。さらに、市民公開講座やがんサロンの開催、医療従事者を対象とした症例検討会、放射線・化学療法研修会、緩和ケア研修会、在宅・緩和ケア症例検討会、地域連携・相互交流学習会の開催などにより、地域の医療水準の向上に寄与しており、施策に対して貢献しています。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	<p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き公立病院として、市民に信頼される医療を提供するとともに、患者満足度については、総合満足度への影響度の高い「院内の設備」や「待ち時間(外来)」「交通アクセス」等の項目での取組を重点的に検討し、高水準の維持に努めます。 紹介患者数については、クリニック訪問や地域の医療従事者を対象とした研修会等を継続的に実施することにより、地域の医療従事者との顔の見える関係の構築に努めます。 地域包括ケア病床をはじめとした増加するリハビリテーションの医療ニーズに対応するため、必要となる療法士の体制をさらに強化し、入院患者に対するリハビリテーションの早期介入と充実を図ることで、早期回復や円滑な在宅復帰を支援します。 <p>(「神奈川モデル」における「重点医療機関」として、新型コロナウイルス感染症の中等症患者の受入れを適切に行います。また、各種検診の受入れやイベント等について、感染拡大防止のための休止や延期等も含め、状況に応じて適切に対応します。)</p>	
	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載							
	10602030	多摩病院の運営管理				有							
担当	組織コード	所属名											
	832000	病院局経営企画室											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)								
	平成17年度	—	施設の管理・運営	—									
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例												
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名									
	取組2(10)公営企業の経営改善			9 多摩病院の効率的な運営									
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度		R2年度		R3年度					
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	827,660	762,946	839,726	865,877	870,309	856,806	828,632		866,807		
		国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0		0		
		市債	137,000	—	150,000	173,000	—	166,000	146,700		176,000		
		その他特財	180,341	—	179,828	181,734	—	180,908	174,270		180,909		
	一般財源	510,319	—	509,898	511,143	—	509,898	507,662		509,898			
人件費※ B	15,670	15,670	15,548	15,548	15,548	0	0	0	0	0	0		
総コスト(A+B)	843,330	778,616	855,274	881,425	885,857	856,806	828,632	0	866,807	0	0		
人工(単位:人)	1.85		1.83										

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	市民の健康を守る 信頼される市立病院の運営 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・患者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に受けられるようにします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者制度を導入し、民間活力を活かした効果的かつ効率的な病院運営を行います。基本的医療機能として、救急医療、小児救急医療、災害時医療を中心に、小児から成人、高齢者・妊産婦等への医療の提供を行います。また、救急及び急性期医療を軸とする中核病院としての役割が果たせるよう、さらには市立病院として適切な運営が行えるよう、指定管理者(聖マリアンナ医科大学)への指導・管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①指定管理者制度を活用した効率的な病院運営の推進 ②外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取(多摩病院運営協議会の開催:年2回以上) ③市北部地域の中核病院として、救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進(救急患者受入数:12,700人以上) ④長寿命化に向けた適切な施設維持の実施、医療需要に基づいた確かな医療機器更新の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①指定管理者制度を活用した効率的な病院運営の推進については、平均して月に3回以上、多摩病院に赴き、各種必要な情報を適切に伝達するとともに、指定管理者と課題や問題点等について協議し、調整及び解決を図り、適切に病院運営を推進しました。 ②外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取については、市立病院運営委員会における審議を2回、モニター会議を通じた意見聴取を1回実施しました。 ③市北部地域の中核病院として、救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進については、24時間365日の救急医療、小児救急医療等を実施しました。(救急患者受入数13,256人) ④長寿命化に向けた適切な施設維持の実施、医療需要に基づいた確かな医療機器更新の推進については、軽易工事、建設改良工事等を実施するとともに超音波診断装置等を更新しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 活動指標	多摩病院運営協議会等の開催回数	目標	2	2	2	2	回
	説明 市立病院運営委員会における審議、モニター会議を通じた患者サービス向上に関する意見要望等の聴取回数	実績	4	3	—	—	
2 成果指標	入院患者満足度	目標	88	88.6	89.3	89.3	%
	説明 市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	84.9	86.4	—	—	
3 成果指標	外来患者満足度	目標	79.7	80.7	81.7	81.7	%
	説明 市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合	実績	73.5	79.1	—	—	

4	成果指標	病床利用率(一般)	目標	80	80	80	80	%
		説明 病院のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値)×100(%)	実績	81.9	83	—	—	
5	成果指標	救急患者受入数	目標	12,400	12,700	13,000	13,000	人
		説明 夜間や休日等の診療時間外に診察を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計	実績	13,023	13,256	—	—	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	将来的に人口増加が予測されている川崎市北部地域では、特に小児を含む救急医療の確保についての市民要望がこれから益々高まっていくことが見込まれています。そのため、北部地域の中核病院として救急・急性期医療を中心とする医療ニーズに対応した、質の高い安全で安心な医療サービスの提供を継続することが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 24 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H24年度:平成24年4月1日から利用料金制度へ移行しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
	評価の理由	【市民のニーズ】人口増加による小児救急医療、高齢化の進展による救急搬送の増加等への対応のため、北部地域の中核病院として救急・急性期医療を中心とする医療ニーズに対応した、質の高い安全で安心な医療サービスの提供を継続することが求められています。 【市が実施する必要性】本事業は指定管理者制度による市立病院の運営管理であり、民間を活用した効率的な病院運営については実施済みです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	患者満足度については、入院・外来ともに目標達成に至らなかったものの、前年度を上回りました。また、病床利用率、救急患者受入数については目標値を達成しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	指定管理者制度は開院当初から実施済みであり、現状からの更なる効率性を求める場合には、指定管理者の交代や指定管理者制度を廃止し、病院自体を民間に譲渡するなどの措置を講ずることが必要です。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要													
事務事業	事務事業コード	事務事業名							政策体系別計画の記載				
	10602040	良質な医療の提供を担う人材の確保・育成事業							有				
担当	組織コード	所属名											
	831100	病院局総務部庶務課											
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類		分類1(市民サービス等)		分類2(内部事務)						
	—	—			その他		内部管理						
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他												
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 地方公務員法、地方公営企業法												
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画、人材施策推進基本計画、男女平等推進行動計画												
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目					課題名							
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度			R2年度			R3年度			
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	0	0	0	33,616	0	0	34,190	0				
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	0	—	0	0	0			
		市債	0	—	0	0	—	0	0	0			
		その他特財	0	—	0	33,616	—	0	34,190	0			
		一般財源	0	—	0	0	—	0	0	0			
	人件費※ B	27,951	27,951	28,037	28,037	28,037	0	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	27,951	27,951	28,037	61,653	28,037	0	34,190	0	0	0	0	
	人工(単位:人)	3.3		3.3									

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)	
政策体系	政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	人材の確保:市立病院に就職を予定している人 人材の育成:本市病院事業職員
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	人材の確保:優秀な医療人材の安定確保に努めます。 人材の育成:医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めます。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	効果的な広報活動、柔軟な採用選考、多様な任用制度の活用等により、採用困難職種である医師、看護師等の確保に取り組むとともに、局人材育成計画に基づき、各種研修の充実、受講支援等を行い、職員の人材育成と能力開発に努めます。
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①医師・看護師等の人員体制の検討(地域における医療需要や必要な医療機能を踏まえた医療提供体制の検討) ②効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保(助産師・看護師の合同就職説明会:年19回以上開催) ③人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成(認定看護師:川崎病院及び井田病院合わせて45人以上)
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)											
上記「当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり		4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		ほぼ目標どおり達成できました。 ①各病院の機能や需要に応じた適切な人員体制について検討を行いました。 ②効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保について、人材派遣会社等が主催する助産師・看護師の合同就職説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由として主催者により4回中止となり、開催回数は年14回となりましたが、その全てにブースを出展しました。 ③人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成については、認定看護師数は川崎病院及び井田病院合わせて49人となり、目標を上回って達成できました。									
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位	
1	活動指標	助産師・看護師の合同就職説明会の開催数				目標	19	19	19	19	回
		説明	官民を問わず助産師・看護師の採用を予定している病院が、求職者に対して就職を勧奨するために参加する合同の説明会の年間開催数(ブース出展数)			実績	17	14	—	—	
2	成果指標	認定看護師数				目標	43	45	47	47	人
		説明	特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師として日本看護協会が認定した看護師の川崎病院・井田病院の在職者数			実績	48	49	—	—	
3						目標					
		説明				実績			—	—	
4						目標					
		説明				実績			—	—	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		小児科医、産科医をはじめとして、全国的な医師不足となっています。また、税・社会保障一体改革における推計において、団塊の世代が後期高齢者となる令和7年には、看護職員は3万人～13万人が不足すると見込まれています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H27年度：病院医事課に配置する事務系専門職種である医療事務職の採用選考を実施しました。 H25年度：助産師・看護師の採用選考案内の作成を年度一括に変更し、経費を削減しました。 H24年度：看護師確保のための学校訪問について、採用者実績に応じた重点訪問方式に見直しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. 事例はない b. 事例がある	a
評価の理由		本事業の実施については、医療制度改革、診療報酬改定等の国の制度改革の影響を直接に受けるため、これらの動向を注視しながら、本市立病院が担うべき医療機能にふさわしい人材の育成・確保に取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標(認定看護師数)も目標値を上回って達成しており、看護師確保についても、7対1看護配置基準の維持に必要な看護師を確保しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由		良質な人材確保について、より効果的な広報活動による改善が考えられます。人材育成については、局内で開催する研修をはじめ、職種や専門分野ごとの学会や職能団体等が実施する研修への参加により、医療提供に必要な知識や技術の向上、より高度な資格取得に向けた支援に取り組んでいます。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	内科専攻医については、神奈川県における採用上限数が設定されたこと等により減少しましたが、他の診療科医師や看護師については、人材確保を図り、医療提供体制を維持しています。

改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	引き続き、今後の地域における医療需要や必要な医療機能を踏まえた適切な医療提供体制を検討し、必要な職員の確保と育成を進めていきます。 (医療人材確保に向けた助産師・看護師の合同就職説明会の開催について、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的に主催者による中止が相次いでいるため、WEB上で実施される就職説明会や学校主催の説明会への参加等、新たな手法を活用します。)
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつこ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)

令和元年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				政策体系別計画の記載						
	10602050	経営健全化推進事業				有						
担当	組織コード	所属名										
	832000	病院局経営企画室										
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービスの分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)							
	平成17年	—	その他	その他	政策推進計画等(策定・進行管理)							
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他											
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 新公立病院改革ガイドライン(H27.3、総務省自治財政局長通知)											
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画											
行財政改革第2期プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名								
	取組2(10)公営企業の経営改善			8「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」に基づく経営健全化の推進								
予決算 (単位:千円)	年度	H30年度		R1年度			R2年度			R3年度		
		予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	282,792	151,272	261,036	322,122	191,002	263,282	287,636	263,281		
		国庫支出金	0	-	0	0	-	0	0	0		
		市債	0	-	0	0	-	0	0	0		
		その他特財	254,204	-	232,448	293,534	-	234,694	259,048	234,693		
		一般財源	28,588	-	28,588	28,588	-	28,588	28,588	28,588		
	人件費※ B	51,667	51,667	51,826	51,826	51,826	0	0	0	0	0	
	総コスト(A+B)	334,459	202,939	312,862	373,948	242,828	263,282	287,636	0	263,281	0	0
	人工(単位:人)	6.1		6.1								

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

政策体系	政策	市民の健康を守る
	施策	信頼される市立病院の運営
	直接目標	誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	病院事業会計	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市立病院の経営の健全化を推進し、信頼される安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に受けられるようにします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	病院経営の改善に向けて、中期経営計画の策定や進捗管理、企画・立案や経営分析、諸統計の作成、諸課題の調整のほか、情報管理などを行い、病院事業の経営健全化を推進します。	
当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①川崎市立病院中期経営計画に基づく安定的な病院運営及び経営の効率化の推進 ②計画的・戦略的な設備・医療機器の整備 ③患者サービスの向上に資する取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標を下回りました。 ①安定的な病院運営及び経営の効率化に向けて、川崎市立病院中期経営計画に基づく取組を推進するとともに、その取組状況に対する外部評価を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少や、高額薬剤の増加による薬品費の増加、川崎病院の内科医師の減少などにより、経常収支比率は井田病院において改善が図られたものの、両病院ともに目標を達成できませんでした。 ②計画的・戦略的な設備・医療機器の整備について、川崎病院マンモグラフィ(乳房X線撮影装置)の更新時に機器購入と保守契約の合併入札を行うことで、複数年のトータルコストでの競争が可能となり、契約価格低減に効果がありました。 ③令和2年2月に川崎病院の一部の診療科で、外来の待ち状況が確認でき、診察の順番が近づく通知が届くスマートフォンアプリを導入しました。かわさきWi-Fiのアクセスポイントを増設し、全ての外来エリアでかわさきWi-Fiが使えるようになりました。正面玄関入り口に地域医療機関(連携登録医)が検索できるデジタルサイネージを設置しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	単位
1 成果指標	経常収支比率(川崎病院)	目標	103.8	103.9	104.1	104.6	%
	説明	実績	103.3	101.3	—	—	
2 成果指標	経常収支比率(井田病院)	目標	95.3	96.9	97.2	98.1	%
	説明	実績	95.5	96.7	—	—	
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	高齢化の進展や人口減少、あるいは雇用基盤や家族形態等の変化など、社会保障制度を取り巻く環境が大きく変化する中においても、公立病院には、地域において必要な医療提供体制の確保を図り、安定した経営の下で、不採算医療や高度・急性期医療等を、継続的に提供することが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年3月:「川崎市立病院中期経営計画2016-2020(計画期間:H28~R2年度)」策定 H27年3月:「新公立病院改革ガイドライン(総務省自治財政局長通知)」 病院事業を設置する自治体に「新公立病院改革プラン」の策定を要請 H24年3月:「第3次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H24~26年度)」策定 H21年3月:「第2次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H21~23年度)」策定 H18年3月:「川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H17~21年度)」策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. 事例はない b. 事例がある	b
評価の理由	【市民のニーズ】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】公立病院として、引き続き救急医療、感染症等の政策的医療・不採算医療を担っていく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少や、高額薬剤の増加による薬品費の増加、川崎病院の内科医師の減少などにより、経常収支比率は井田病院において改善が図られたものの、川崎病院では悪化しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	【民間の活用】現在、薬品費の節減などに活用している値引き交渉アドバイザーの対象分野を広げるなど、民間活用によりコストを削減できる余地があります。 【事業手法等の見直し・質の向上】各病院では、清掃業務や窓口会計業務等、委託による民間活用によって経費削減に取り組んでいますが、更なる仕様の精査や契約方法の工夫などによって、より一層効率化、質の向上が図られる可能性はあります。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	成果指標の経常収支比率は、目標値を達成できなかったものの、「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」に基づき、公立病院としての役割である救急医療、小児・産産期などの医療を継続的に提供することによって、信頼される市立病院の運営に貢献しました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

※新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、今後の方向性に影響が生じる事務事業については、「今後の事業の方向性」に、かつ書きで、新型コロナウイルス感染症を踏まえた今後の方向性を、令和2年6月末までの状況を踏まえて記載しています。(国による緊急事態宣言が4月に発出されるなど、4月以降に急激な状況変化が生じていることから、この部分に限って4月以降の状況も踏まえた内容を記載しています。)